

各位

会社名 株式会社マネーパートナーズグループ  
 代表者名 代表取締役社長 福島 秀治  
 (コード番号：8732 東証第一部)  
 問合せ先 経営管理部長 宇留野 真澄  
 (TEL. 03-4540-3804)

## 2021年7月次 月次概況(速報)のお知らせ

2021年7月次の当社グループの月次概況(連結ベース)を下記のとおりお知らせいたします。なお、営業収益及び外国為替取引預り証拠金は速報値であるため、決算発表時の数値と異なる場合があります。

## 記

年月	2021年3月期											
	2020年									2021年		
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
営業収益 (単位：百万円)	407	303	318	282	309	310	273	355	495	413	452	591
外国為替取引高 (単位：百万通貨単位)	82,072	92,851	106,893	75,910	85,460	82,287	60,129	75,348	71,190	66,894	71,453	97,402
外国為替取引口座数 (単位：口座)	340,605	340,735	340,825	340,830	340,840	340,768	341,218	341,138	341,086	341,521	341,690	342,122
外国為替取引預り証拠金 (単位：百万円)	62,460	62,004	61,807	62,331	62,751	65,155	62,104	61,812	61,175	60,590	59,575	59,081
一般顧客	60,227	59,654	59,267	60,022	60,364	63,044	60,121	59,849	59,365	58,733	57,731	57,346
金融法人(BtoB)	2,232	2,350	2,539	2,309	2,386	2,111	1,982	1,963	1,809	1,856	1,843	1,734
マネパカード口座数 (単位：口座)	162,828	163,034	163,058	163,086	163,138	163,159	163,034	162,996	162,802	162,492	162,309	161,921

年月	2022年3月期											
	2021年									2022年		
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
営業収益 (単位：百万円)	445	403	430	395								
外国為替取引高 (単位：百万通貨単位)	72,253	82,478	73,411	92,739								
外国為替取引口座数 (単位：口座)	342,801	343,397	343,817	344,134								
外国為替取引預り証拠金 (単位：百万円)	58,635	56,276	56,581	56,671								
一般顧客	57,068	54,786	54,965	55,027								
金融法人(BtoB)	1,567	1,489	1,616	1,644								
マネパカード口座数 (単位：口座)	161,712	161,526	161,301	161,091								

- (注) 1. 外国為替取引高は、顧客との相対取引による通貨毎の取引高を原通貨単位のまま合計したものであり、円換算は行っていません。
2. 外国為替取引口座数、マネパカード口座数及び外国為替取引預り証拠金は、それぞれ月末時点の口座数及び残高であります。
3. 2011年8月より差金決済取引(CFD)の取扱いを開始しており、CFDにおける預り証拠金、取引高(原取引単位を米ドルに換算)及びこれに伴うトレーディング収益はそれぞれ「外国為替取引預り証拠金」、「外国為替取引高」及び「営業収益」に含めて表示しております。
4. 外国為替取引預り証拠金は、一般顧客からの取引によるものとBtoB取引先である金融法人からの取引によるものを区分して表示しております。
5. 2020年7月から2021年3月までの「営業収益」には連結子会社のコインエージ株式会社の数値が含まれております。なお、同社は2021年3月31日をもって暗号資産交換業を廃業し解散しております。

#### < 7月次の概況 >

7月の外国為替相場は、米ドル／円については、1ドル=111円台前半で取引が始まり、堅調な米株価や原油価格を背景に上昇し、2日には年初来高値となる111円台後半の高値を付けました。しかし、その後は米6月雇用統計が強弱入り混じる結果となったことや、7日に発表されたFOMC議事要旨で早期の金融緩和縮小が示されたこと等により、反発する場面もありましたが、ドル売りの流れとなりました。さらに19日にはコロナ感染再拡大に伴い世界経済の先行き不透明感が意識されると米株価が急落し、リスク回避の円買いが進行し、米金利の低下も相俟って109円前半となる安値を付けました。23日にはリスク回避の動きが後退し米金利も上昇するとドル買いの流れとなり110円台半ばまで上昇しましたが、その後は109円台半ばから110円台近辺で推移し109円台半ばで月末を迎えました。一方、米ドル／円以外の主要な取扱通貨である欧州・オセアニア通貨については、20日辺りまで概ね円高傾向での推移となり、その後は円安傾向に狭いレンジでの動きとなりました。外国為替相場の変動率は、米ドル／円の月間の値幅（高値と安値の差）が2円以下にとどまった5月、6月から拡大し2円60銭となるなど、全体としては著しく低調な水準であった前月から一定程度上昇しました。

このような状況の中、パートナーズFXnanoの米ドル／円において、5月3日から18時00分～21時00分の時間帯に限り1回当たりの取引数量20万通貨までスプレッド0.0銭（売買同値）とするキャンペーン実施しております。これに加えて7月26日からは1回当たりの取引数量5万通貨まで原則24時間スプレッド0.0銭（売買同値）とする当社独自のキャンペーンを実施しております。これらが功を奏し、外国為替取引高は、米ドル／円を中心に増加し、前月比26%増加の927億通貨単位となりました。一方、営業収益は、ポジションのロールオーバー時における受渡日の繰延べ日数の関係や取引高に対して相対的に収益性の低い米ドル／円の割合が高まったこと等からトレーディング損益が減少し、前月比8%減少の395百万円となりました。また、外国為替取引預り証拠金は一般顧客分と金融法人分が共に増加となり、全体では89百万円増加の56,671百万円となりました。

以 上